

報道関係者 各位

和歌山県におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

和歌山県から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

資料提供	(平成22年 1月18日)
和歌山県新型インフルエンザ対策本部	
問い合わせ先	
難病・感染症対策課	073-441-2657

抗インフルエンザ薬「タミフル」に耐性を示す 新型インフルエンザウイルスの確認について

オセルタミビル（商品名：タミフル）耐性を示す新型インフルエンザウイルスが検出されましたのでお知らせします。

なお、患者は既に回復し、周囲へのタミフル耐性を疑う感染も確認されていません。

【経過概要】

- インフルエンザの流行動向を把握するため、医療機関の協力を得て、インフルエンザ患者から採取した検体について、ウイルスが新型か季節型かの型を確認するウイルスサーベイランスを実施しています。
- 和歌山県環境衛生研究センターでは、6月から現時点までに提供を受けた検体のうち112株について、ウイルスの分離・同定作業を経てタミフル耐性の検査を行ってきました。
- 今般、平成21年12月10日に採取した検体から12月22日にタミフル耐性のオセルタミビル耐性マーカーH275Yが認められたため、12月23日に国立感染症研究所に送付。薬剤感受性試験が行われ、本日、タミフル耐性が確認された旨の通知がありました。
- なお、全国では昨日までにオセルタミビル耐性を示す新型インフルエンザウイルスが33例確認されており、県内では2例目です。

【患者の概要】

県内在住の 2歳 男性

- 12月 5日 発熱等のインフルエンザ症状が出現し近医受診。
簡易キットA（-）、タミフル処方なし。
- 12月 6日 症状改善しないため近医受診。
簡易キットA（+）、タミフル処方。
- 12月10日 症状改善しないため近医受診し入院となる。
検体採取しリレンザ処方。
- 12月11日 PCR検査で新型インフルエンザ陽性判明。
- 12月15日 回復し、退院。

【その他】

- 厚生労働省によれば、タミフルに対する耐性をもつ遺伝子変異は、ウイルスの重篤度（病原性）には直接影響を及ぼすものではないとされています。
- 和歌山県環境衛生研究センターへの取材は、御遠慮願います。

本件は、平成21年10月8日付け厚生労働省新型インフルエンザ対策本部 事務連絡「新型インフルエンザ（A/H1N1）に係る今後のサーベイランス体制（改定版）」に基づき、新型インフルエンザウイルスの遺伝子解析等により、薬剤耐性を確認したことから、厚生労働省との連携のもと、公表を行うものです。
報道に際しましては、個人のプライバシーに十分配慮していただきますようお願いいたします。